

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	24-334	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Antidotes for poisoning by alcohols that form toxic metabolites 有毒な代謝物を形成するアルコールによる中毒の解毒剤		
執筆者		
Kenneth McMartin ¹ , Dag Jacobsen ^{2,3,4} , Knut Erik Hovda ^{2,3,4}		
掲載誌		
Br J Clin Pharmacol. 2025 Mar;91(3):662-671. doi: 10.1111		
キーワード		PMID
エタノール、エチレングリコール、フォメピゾール、メタノール		39234820
要 旨		
<p>メタノール、エチレングリコール、ジエチレングリコールといったアルコール類は多くの特性を共有している。最も重要な点は、化合物自体は比較的毒性が低いものの、アルコール脱水素酵素による初期代謝を経て様々な有毒中間体へと変換されることである。これらの化合物は世界中で市販製品や自家製アルコール飲料に容易に入手可能であり、意図的・非意図的な摂取による中毒の大半はこれらに起因する。比較的頻度は低いものの、残念ながら有毒アルコール中毒は集団発生し、重篤な罹患率や死亡率をもたらすことがある。従来、これらの中毒はエタノールで治療されてきた。エタノールはアルコール脱水素酵素の活性部位と競合し、有毒代謝物の生成を減少させるためである。エタノールは有効な解毒剤となり得るが、その使用には重大な実用上の問題がある。このため、アルコール脱水素酵素の強力な競合阻害剤であるフォメピゾールが、代謝性アルコール中毒に対するより優れた治療法として開発された。フォメピゾールは副作用が少なく、臨床現場での使用が容易であり、一部の患者（全員ではない）では血液透析の必要性を回避できる可能性がある。したがって、多くの国でフォメピゾールはエタノールに代わる中毒性アルコール解毒剤として広く採用されている。しかしながら、フォメピゾールの入手が制限される場合や、費用が過大に感じられる場合、あるいは医師が経験からエタノールを好む場合などがあるため、エタノールは依然として重要な代替手段である。</p>		